

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-3-3 医療従事者の養成・確保

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 医療政策課医師確保対策室長 安食 治外 電話番号 0852-22-6786

事務事業の名称	地域医療を支える医師確保養成対策事業	
目的	(1) 対象	医学生、研修医、医師
	(2) 意図	県内の医師不足地域での勤務(主に病院での勤務)を誘導する。
事業概要	①現役医師を確保するため、県外医師を招聘する医師を「呼ぶ」、②地域医療を担う医師を養成するため、奨学金の貸与等により県内定着を促進する医師を「育てる」、③代診医の派遣等により医師を「助ける」の3本柱により、医師確保対策を実施した。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	しまね地域医療支援センターへの医師登録者数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		88.00	108.00	145.00	174.00	
式・定義	しまね地域医療支援センターに登録した医師に対してキャリア形成支援を行い県内定着の促進を図る		実績値	53.00	98.00	117.00	144.00		
			達成率		111.40	108.30	99.40		%
指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位		
								目標値	0.00
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	472,305	596,529
うち一般財源(千円)	297,296	326,215

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

○しまね地域医療支援センター登録医師はおおむね順調に増加している。
 ○勤務医師実態調査では、県内病院・公立診療所の必要医師数は1214名、現員数は951名で、不足数は263名(H26.10.1現在)
 ○医師の現員数は増えているが(H18→H26: +31)、必要数も増加しており、充足率に大きな変化なし

6. 成果があったこと(改善されたこと)

○医師を「呼ぶ」事業
 H26年度は10名の医師を招聘(H14以降累計126名)
 ○医師を「育てる」事業
 地域枠や奨学金等の貸与を受けた医師が141名となり、106名が県内勤務(+28)。県西部など特定地域に勤務する医師が増加(+14)している。(H27.4.1現在)
 ○医師を「助ける」事業
 代診医の派遣

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」
 地域枠や奨学金等の貸与を受けた医師が141名となり、今後も毎年20名程度増加する見込みであるが、引き続き、医師不足、とりわけ地域偏在、診療科偏在が課題

②困っている状況が発生している「原因」
 しまね地域医療支援センターの登録医師は増加しているが、その多くが若手医師であることもあり、医師不足の解消にいたっていない。

③原因を解消するための「課題」
 地域枠、奨学金等の貸与医師の県内定着、医師不足地域での勤務配置
 医師不足は全国的な課題であり、地方だけの取組みには限界がある

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

○初期臨床研修医を中心に地域枠等出身医師の県内勤務者が増加するなど、しまね地域医療支援センター等の取組みの成果が表れてきている。しまね地域医療支援センターにより、若手医師のキャリアプラン形成を支援し、県内定着、特定地域での勤務配置が計画的に進められるよう取り組む。
 ○国に対し、医師不足解消のための仕組みを国の責任において、実現するよう強く求めていく。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)